第１３回教育委員会（臨時）議事録

1　開　会

令和 7 年 3 月 27 日（木）　14 時 00 分

2　場　所

市役所第 2 庁舎 3 階　2-301・302 会議室

3　会議に出席した委員

教育長	丹後　政俊
委　員	西田　正志
委　員	鈴木　友美
委　員	吉良　佳晃
委　員	倉　真智子

4　会議に出席した職員

学校教育部長	酒井　寛興
こども未来部長	田中　正典
社会教育部長	小林　康弘
学校教育次長	浅田　智広
教育総務課長	山内　俊秀
学校教育課長	小嶋　拓也
学 事 課 長	荒木　敏文
教育研究所副所長	足立　圭吾
東部学校給食センター所長	井上　尚和
西部学校給食センター所長	仁木　秀樹
保育教育課長	山田　康弘
社会教育・文化財課長	田中　和哉
中央図書館長	田中　真紀子
市史編さん課長	小畠　理三
田園交響ホール館長	酒井　直隆
中央公民館長	竹見　朋子
教育総務課主査	北尾　真理奈

5　議事日程及び議案

別紙の通り

6　開会宣言

14 時 00 分

7　会　期

（自）令和 7 年 3 月 27 日　（至）令和 7 年 3 月 27 日　1 日間

8　会議録署名委員名簿

倉真智子委員

9　閉　会

15 時 52 分

丹後教育長	開会に先立ち、非常に大事な計画である第4期教育振興基本計画が未策定であることについて、改めてお詫び申し上げる。市議会の一般質問でも取り上げられるとともに、新聞にも大きく報道され、議員全員協議会でもご質問を受けた。諸事情はあるが、一番はやはり教育委員会を束ねる者として、私のマネジメント力、統括力不足と感じており、責任を痛感している。誠に申し訳ございません。今回の件で、多くの方に丹波篠山市の教育や教育委員会自体にも不安やご心配を与えてしまったと感じており、計画の策定を急ぐとともにしっかりと教育委員会の責務を果たしていかなければならないと思っている。
西田委員	私も教育委員の立場から状況把握が不十分であったこと、チェック機能を働かせることができなかったことを反省している。議会をはじめ市民の声は非常に厳しいものがある。事務局職員含め、全員で教育委員会の信頼回復に向けて取り組んでいくしかないと思っている。
丹後教育長	日程第1、令和6年度第11回会議録の報告、承認について意見等はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員異議なしで、会議録をこのとおり承認する。
丹後教育長	日程第2、会議録署名委員は、4番倉真智子委員を指名する。
丹後教育長	日程第3、会期は令和7年3月27日、本日1日間とする。
丹後教育長	日程第4、議案に移る。議案第30号丹波篠山市立田園交響ホールの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、田園交響ホールに説明を求める。
酒井館長	《議案書に基づき説明》
吉良委員	今まで楽屋Bが貸し出しされていなかった経緯と貸し出しを希望される市民の活動分野について教示いただきたい。
酒井館長	主に文化団体のリハーサル会場として貸し出してきたが、今回、様々な会議を行いたいとのご意見をいただくなかで貸し出すこととした。主な利用団体は合唱団体、ダンス団体や音楽協会等であり、現在は他施設を利用されているとのことであるが、今後は交響ホールを利用いただけると見込んでいる。
吉良委員	今後、益々の社会教育の発展を期待している。
丹後教育長	議案第30号、「丹波篠山市立田園交響ホールの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」を採決する。異議はないか。

全委員	異議なし。 全員賛成で、議案第 30 号「丹波篠山市立田園交響ホールの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」は原案どおり可決する。
丹後教育長	日程第 5、報告事項に移る。報告 1「第１２５回丹波篠山市議会弥生会議一般質問について」、教育総務課に報告を求める。
山内課長	《議案書に基づき報告》
西田委員	向井議員に対する教育長答弁で、「～特別支援教育支援員等の人的配慮も対応しながら～」とあるが、人的配置の誤りではないのか。
山内課長	「～特別支援教育支援員の人的配置も配慮しながら～」に訂正する。
西田委員	金崎議員の一般質問に関し、こども園化により一つの施設で子どもを 5 年間受け入れることができることになる一方で、施設が大きくなることで園庭管理や給食の受け渡し等、これまでなかった業務が発生する。この業務が、こども園の先生の業務かと言うと難しい面がある中、園務員の配置をお願いしていたが、状況はどうか。
山田課長	令和 7 年度においては、こんだこども園及びたきこども園における清掃業務委託経費として、シルバー人材センターに委託する金額を計上し、3 月議会において議決いただいた。これまでは職員が対応していた保育室やトイレの清掃、給食の受け渡し等についてもシルバー人材センターに対応いただくように現在すり合わせているところである。
西田委員	予算化に感謝する。このことは一つの前進であると思うが、やはり総合的に対応いただける職種としては園務員が適任と考える。一部のこども園や幼稚園には園務員が配置されていること及び城東のこども園化においても同様の問題が発生することが想定されるので、一部業務の委託ではなく、園制度になじむ園務員配置を検討いただきたい。
山田課長	令和 7 年度予算要求にあたり、園務員配置を進めていたが、査定の過程でゼロベースとなり、その代替として、シルバー人材センターへの清掃業務委託費を予算要求したのが経緯である。当然、来年度以降についても引き続き努力はしていく。また保育園においても、清掃業務については、何とか入れていく方法で次年度も努力していきたい。
山内課長	学校校務員の委託契約の担当課として、校務員委託業務の状況を共有させていただく。これまでから、校務員業務の中で清掃業務も委託してきたが、校務員自身が歳を取られていることや草刈り機を使えない方も増えてきていることから、受託先からは校務員業務からの切り離し提案もでているのが現状である。総合的な業務を担っていただく校務員や園務員を受託できる事業者が、今後なくなることも予測される中、一部業務を別注せざるを得ない状況も生まれるかもしれないことも含め、検討していく必要がある。

鈴木委員	金崎議員の質問に関し、答弁のあった城東保育園で実証実験を実施した安全お昼寝センサーの内容及び保育士の反応を教示願う。
山田課長	昨年度にコニカミノルタ社から提案されたものである。協議を重ね、保護者の同意を得たうえで、10 月に城東保育園にセンサーを設置し、1 週間の実証実験を行った。天井にカメラを設置し、お昼寝をしている園児の頭がうつ伏せにならないかをカメラで監視し、うつ伏せになればセンサー等で知らせるものである。実証実験段階であり、製品化にあたっては、コニカミノルタ社内で検討、研究をされている段階である。今後、城東保育園での実験依頼があれば、協力していきたいと考えている。
西田委員	安井議員の質問に対する答弁のとおり、私も学校の統廃合をコストの面から語ることについては反対であり、教育に携わる者としては、子どもの学びにとって何が最もふさわしいのか議論を進めるべきであると思っている。しかしながら、三田市や丹波市においても統合に向けての議論を進められているとともに、本市においても出生数が 200 人を切るような状態で、数年後には今よりも複式学級が増えていくのは明らかである中、教育的観点からどのようにすべきか議論する時期に来ていると感じている。
丹後教育長	統合については、地域からの要望がなければ全く議論しないと言うつもりはないが、学校が防災拠点となっていることも含め、地域づくりの核となる重要な施設でもあることから、地域の声も大事にしながら、教育の観点に加え、保護者や子どもの声等、総合的に判断する必要があると思っている。
西田委員	もちろん統合ありきの議論は私も反対であるが、子どもを中心に据え、子どもにとって何が良いのかを議論すべきである。城東地区における統合時においては、議論を始めて 3 年、その考えを広めて 5 年間かかっている。地域の合意形成も 3 年間で積み上げてきたものであることも逆算し、今生まれた子どもたちにとってどうあるべきかを考えておかないと、拙速な議論になってしまう恐れがある。当時、事務局は 3 年間、年間に夜間だけでも 100 回近くの議論を地域と積み上げてきたことも含め、その準備をする時期に来ていると考える。
丹後教育長	現在、進めている篠山、たまみず、岡野幼稚園区統合については、地域の方々の声や保護者の声が一致していることもあり、スムーズに進んでいることも踏まえると、教育委員会のみで計画するのではなく、地域や保護者の声を大事にし、進めていくことが大切であると考える。一方で、ご指摘の通り教育委員会の観点から考えていくことも重要であり、しっかりと議論を重ねていかなければと考えている。
西田委員	市全体に広く声を聴いていく機会が必要ではないか。
吉良委員	子ども及び保護者の人数が減ってきていることもあり、声を上げにくいこともあると思う。声を上げる、声を聴く場をつくることは大事であると考えている。
丹後教育長	私が言いたいのは出生数や教育委員会の視点だけではなく、総合的な視点が必要であり、それを大事にしていきたいということである。

西田委員	桐村議員からのスクールソーシャルワーカーと保健福祉部との連携に関する質問において、保健福祉部と連携した会議にスクールソーシャルワーカーが出席していることをなぜ答弁に入れなかったのか。
小嶋課長	会議に参加していることは認識しているが、スクールソーシャルワーカーが出ていない事案もあると聞いていたので、あえて答弁はしなかったが、全体としての福祉との情報共有と連携については随時行っているとの判断からの表現である。ただ、状況については、しっかりと伝えていくべきであったかもしれない。
西田委員	会議においては、本当に情報が共有されているかが重要であり、それを精査できるのは教育委員会事務局である。要望になるが、ただ会議に出席しているから連携できていると考えるのではなく、本当に福祉部門と情報共有が出来ているのかを精査いただきたい。
小嶋課長	精査していくが、スクールソーシャルワーカーにおいては、必要な状況に対し、しっかりと対応していると自信を持って言えることを報告しておく。
丹後教育長	多様な視点からご質問いただいた。議員からの意見も大事にしながら進めていきたい。
丹後教育長	報告２「令和６年度３月小・中・特別支援学校定例校長会について」、学校教育課に報告を求める。
小嶋課長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告３「第３期丹波篠山市子ども・子育て支援事業計画の策定について」、子育て企画課に報告を求める。
田中部長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告４「史跡八上城跡保存活用計画の策定について」、社会教育・文化財課に報告を求める。
田中課長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告５「第３次丹波篠山市子どもの読書活動推進計画の策定について」、中央図書館に報告を求める。
田中館長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告６「丹波篠山市教育振興基本計画策定委員会の設置について」、教育総務課に報告を求める。

山内課長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	しっかりとした議論の上、作成しなければいけない重要な計画である一方で、急ぎの案件でもあるので、可能な限り迅速に進めていきたい。第3期の計画が非常によくできていること及び国や県においても基本的な枠組みを変えていないことから、第3期の計画をベースにしながら進めていきたい。子どもたちがこれから想定される未来を生き抜く力を育てていくことについては、不易の部分であり変わらないと考えているが、これからの社会がどのように変化していくのかを念頭に入れ、具体的にどのような力が必要なのかを考えていく必要がある。子どもたちが予測困難な時代を生き抜く力を育む教育を推進していくためには、答えを覚えるのではなく、主体的に考える力を伸ばしていくことが大事であるとともに、多様化する社会においては、自分の意見と違う多様な意見を尊重することも必要である。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う教育の変化について、不登校児童生徒数の増加が言われているが、体験活動や地域との交流の機会も少なくなってしまったと認識している。こうした体験が不足することで子どもたちの自己肯定感が弱まることにつながるので、体験活動や地域の人との触れ合いの充実と自己肯定感を大切にすることを盛り込んでいきたいと考えている。
丹後教育長	報告7「篠山・たまみず・岡野幼稚園区における保育・教育あり方検討会の進捗状況について」、子育て企画課に報告を求める。
田中部長	《議案書に基づき報告》
鈴木委員	令和 7 年度に入園する園児の保護者もアンケートの対象となっているのか。
田中部長	令和7年度に入園する４・5歳児の園児の保護者も対象にしている。
鈴木委員	今後実施するのか。
田中部長	4月以降に実施し、意見集約後に報告させていただく。
丹後教育長	報告8「令和7年度丹波篠山市人事異動(4月1日)内示について」、教育総務課に報告を求める。
山内課長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告9「令和6年度末県費負担教職員人事異動概要について」に移る。本案件は、人事案件で、まだ公表していない内容もあることから、丹波篠山市教育委員会会議規則第14条第1項第1号の規定に基づき、非公開とするのが適当と考えるが、非公開としてよいか。
全委員	異議なし。

丹後教育長	全員「異議なし」であるので、報告3「令和6年度末県費負担教職員人事異動概要について」非公開とする。 （傍聴者なし） 【会議非公開】
丹後教育長	報告9が終了したので、会議を公開する。 【会議公開】
丹後教育長	令和6年度の最後の教育委員会にあたり、一言申し上げる。 卒業式について、卒業式とはこども園、幼稚園、小学校や中学校によって期間は違うが、学びの集大成であると考えている。卒業式では、緊張する子や感動で涙する子もいる。心を動かすことは、子どもたちにとって非常に大事な経験であることから、これからも心を動かす卒業式が行えるように進めていきたい。 4 月の人事異動等により、教育委員会への出席が今回で最後の職員もいる。令和6年度も含めこれまでから、丹波篠山市教育委員会の様々な業務を担当していただく中で成し遂げてくれた結果に感謝している。私たちの使命は、これまで培ってきた教育を未来へつなげていくことだと考えており、異動先でもつながり持ってもらい、皆の力で丹波篠山の教育を進めていきたい。 以上で、本日の審議は全て終了する。 これをもって、第13回臨時教育委員会を終了する。